

江國 滋[選]

ekuni shigeru

日本ペンクラブ 編

手紙
読本

講談社文芸文庫
Kōdansha Bungei bunko



手紙読本

ekuni shigeru

江國 滋[選]

日本ペンクラブ 編

講談社



文芸文庫

てがみどくほん
手紙読本

えくにしげる
江國滋 選

にほん
日本ペンクラブ 編

二〇一四年九月一〇日第一刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2・12・21 〒112-8001

電話 編集部(03) 5395・3513

販売部(03) 5395・5817

業務部(03) 5395・3615

デザイン——菊地信義

印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社国宝社

本文データ制作——講談社デジタル製作部

©Kodansha Bungeibun 2014. Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料は小社負担にてお取替えいたします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文芸文庫出版部宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-290242-7



講談社
文芸文庫

目次

一 書くべき手紙

年賀状

14

種田山頭火から山本国蔵へ／種田山頭火から

鈴木周二へ／高浜虚子から村上霽月へ

転居通知

17

北原白秋から河井醉茗へ

死亡通知

19

石川啄木から石川光子へ／石川啄木から金田一京助へ

二 書かねばならない手紙

祝い状

24

石川啄木から金田一京助へ／宮沢賢治から菊

池信一へ

見舞い状

27

石川啄木から宮崎大四郎へ

悔み状

32

梶井基次郎から宇賀康へ

礼状

34

萩原朔太郎から高橋元吉へ／永井荷風から堀口大学へ／正岡子規から長塚節へ／正岡子規から小林宗平へ／夏目漱石から富澤敬道へ／北原白秋から志賀直哉へ／有島武郎から志賀

直哉へ

三 書いたほうがいい手紙 45

送り状 48

林芙美子から川端康成へ

招待状 51

内田百閒から小林安宅へ

依頼状 53

内田百閒から多田基へ／萩原朔太郎から室生

犀星へ／若山牧水から太田貞一へ／島崎藤村
から神津猛へ

忠告・激励の手紙 63

福沢諭吉から福沢一太郎へ／福沢諭吉から福

沢一太郎・捨次郎へ／坂口安吾から尾崎士郎
へ／正岡子規から高浜虚子へ／山本周五郎か
ら土岐雄三へ／谷崎潤一郎から谷崎精二へ／
武者小路実篤から志賀直哉へ

四 書きたくない手紙 85

断り状 88

島崎藤村から滝田樗陰へ

詫び状 90

新美南吉から山田梅子へ

弁解の手紙 92

石川啄木から高田治作へ／内田百閒から夏目

漱石へ

告白状

100

正岡子規から夏目漱石へ／横光利一から川端
康成へ／萩原朔太郎から北原白秋へ／岡本か
の子から大貫雪之助へ／正岡子規から加藤恆
忠へ／正岡子規から大原恆徳へ／坂口安吾か
ら山口修三へ

別れの手紙

118

国木田独歩から佐々城信子へ／小泉信三から
小泉信吉へ／小林多喜二から田口瀧子へ

五 読みたくない手紙

127

恋文

130

北村透谷から石坂ミナへ／谷崎潤一郎から根
津松子へ／斎藤茂吉から永井ふさ子へ／内田
百閒から堀野清子へ／徳富愛子から徳富蘆花
へ／国木田独歩から佐々城信子へ／新美南吉
から山田梅子へ

遺書

150

二葉亭四迷から母Ⅱ静子、妻Ⅱ柳子へ／森鷗
外から森於菟へ／宮沢賢治から宮沢政次郎・
イチへ

けんか状

154

谷崎潤一郎から佐藤春夫へ／北村透谷から北

懇願の手紙 161

村ミナへ
太宰治から佐藤春夫へ／太宰治から川端康成へ

六書きたい手紙・読みたい手紙 165

旅信 168

北原白秋から北原隆太郎へ／中島敦から中島桓へ／川端康成から川端政子へ／川端康成から川端一栄・麻紗子へ／夏目漱石から夏目鏡子へ／横光利一から横光千代子へ／寺田寅彦から夏目漱石へ／寺田寅彦から小宮豊隆へ／中原中也から河上徹太郎へ／長與善郎から志賀直哉へ

平信 192

中原中也から中原福へ／岡本かの子から岡本太郎へ／室生犀星から長女Ⅱ朝子、次男Ⅱ朝巳へ／金子光晴から孫娘Ⅱ若葉、夏芽へ／森鷗外から森しげ子へ／堀辰雄から堀多恵子へ／梶井基次郎から北川冬彦へ／若山牧水から和田山蘭へ／夏目漱石から正岡子規へ／芥川

短い手紙

216

龍之介から夏目漱石へ
立原道造から猪野謙二へ／森鷗外から森於菟
へ

解説

江國滋

文芸文庫版解説

218 226

斎藤美奈子

手紙読本

ekuni shigeru

江國 滋[選]

日本ペンクラブ 編

講談社



文芸文庫

目次

一 書くべき手紙 11

年賀状 14

種田山頭火から山本国蔵へ／種田山頭火から

鈴木周二へ／高浜虚子から村上霽月へ

転居通知 17

北原白秋から河井醉茗へ

死亡通知 19

石川啄木から石川光子へ／石川啄木から金田

一京助へ

二 書かねばならない手紙 21

祝い状 24

石川啄木から金田一京助へ／宮沢賢治から菊

池信一へ

見舞い状 27

石川啄木から宮崎大四郎へ

悔み状 32

梶井基次郎から宇賀康へ

礼状 34

萩原朔太郎から高橋元吉へ／永井荷風から堀

口大学へ／正岡子規から長塚節へ／正岡子規

から小林宗平へ／夏目漱石から富澤敬道へ／

北原白秋から志賀直哉へ／有島武郎から志賀

直哉へ

三 書いたほうがいい手紙 45

送り状 48

林芙美子から川端康成へ

招待状 51

内田百閒から小林安宅へ

依頼状 53

内田百閒から多田基へ／萩原朔太郎から室生

犀星へ／若山牧水から太田貞一へ／島崎藤村
から神津猛へ

忠告・激励の手紙 63

福沢諭吉から福沢一太郎へ／福沢諭吉から福

沢一太郎・捨次郎へ／坂口安吾から尾崎士郎
へ／正岡子規から高浜虚子へ／山本周五郎か
ら土岐雄三へ／谷崎潤一郎から谷崎精二へ／
武者小路実篤から志賀直哉へ

四 書きたくない手紙 85

断り状 88

島崎藤村から滝田樗陰へ

詫び状 90

新美南吉から山田梅子へ

弁解の手紙 92

石川啄木から高田治作へ／内田百閒から夏目

漱石へ

告白状

100

正岡子規から夏目漱石へ／横光利一から川端
康成へ／萩原朔太郎から北原白秋へ／岡本か
の子から大貫雪之助へ／正岡子規から加藤恆
忠へ／正岡子規から大原恆徳へ／坂口安吾か
ら山口修三へ

別れの手紙

118

国木田独歩から佐々城信子へ／小泉信三から
小泉信吉へ／小林多喜二から田口瀧子へ

五 読みたくない手紙

127

恋文

130

北村透谷から石坂ミナへ／谷崎潤一郎から根
津松子へ／斎藤茂吉から永井ふさ子へ／内田
百閒から堀野清子へ／徳富愛子から徳富蘆花
へ／国木田独歩から佐々城信子へ／新美南吉
から山田梅子へ

遺書

150

二葉亭四迷から母Ⅱ静子、妻Ⅱ柳子へ／森鷗
外から森於菟へ／宮沢賢治から宮沢政次郎・
イチへ

けんか状

154

谷崎潤一郎から佐藤春夫へ／北村透谷から北

懇願の手紙 161

村ミナへ
太宰治から佐藤春夫へ／太宰治から川端康成へ

六書きたい手紙・読みたい手紙 165

旅信 168

北原白秋から北原隆太郎へ／中島敦から中島桓へ／川端康成から川端政子へ／川端康成から川端一栄・麻紗子へ／夏目漱石から夏目鏡子へ／横光利一から横光千代子へ／寺田寅彦から夏目漱石へ／寺田寅彦から小宮豊隆へ／中原中也から河上徹太郎へ／長與善郎から志賀直哉へ

平信 192

中原中也から中原福へ／岡本かの子から岡本太郎へ／室生犀星から長女Ⅱ朝子、次男Ⅱ朝巳へ／金子光晴から孫娘Ⅱ若葉、夏芽へ／森鷗外から森しげ子へ／堀辰雄から堀多恵子へ／梶井基次郎から北川冬彦へ／若山牧水から和田山蘭へ／夏目漱石から正岡子規へ／芥川

短い手紙

216

龍之介から夏目漱石へ
立原道造から猪野謙二へ／森鷗外から森於菟
へ

解説

江國滋

文芸文庫版解説

218 226

斎藤美奈子

手紙讀本